

# 第9回 企業と生物多様性セミナー

## コカ・コーラ森に学ぼうプロジェクト 環境イベントと環境訪問授業のご紹介



コカ・コーラ  
森に学ぼうプロジェクト

利根コカ・コーラボトリング株式会社  
CSR推進部 広報環境課  
片見 篤史

# 目次

---

1. コカ・コーラ森に学ぼうプロジェクト①②
2. 利根コカ・コーラの環境イベント関連の概要①②
3. 家族参加型の環境イベント
4. 小学校への環境訪問授業
5. 地域主催の環境イベント
6. 各取組みの問題点 & 注意点
7. 今後のビジョン

# コカ・コーラ森に学ぼうプロジェクト①

コカ・コーラ森に学ぼうプロジェクトは、全国各地で展開する自然保護活動や環境教育プログラムとして、2006年から実施しているプロジェクトです。

このプロジェクトは、コカ・コーラにとって重要な“水”を浄化し、自然環境を守る上でも欠かすことの出来ない“森”に焦点をあてた、小中学生の子どもたちを対象としたプログラムとなっています。

## 全国のコカ・コーラ「森に学ぼう」プロジェクト



コカ・コーラ  
森に学ぼうプロジェクト

# コカ・コーラ森に学ぼうプロジェクト②



ツリーマンや森の仲間とっしょに、  
森のたいせつな役割や地球温暖化のことを学ぼう!

📺 楽しいストーリー「森に学ぼう」へGO

「森の博士」認定テスト  
エコ学ぼう  
データの  
実験や  
つくり

**新企画**

### 森にたくす手紙

みんなの1通が森を元気にする

「森にたくす手紙」では、森や自然、未来に対する皆さんのメッセージを募集しています。集まったメッセージの数に応じて、全国の小学生に間伐材えんぴつをお届けします。

間伐材で作ったえんぴつ

👉 「森にたくす手紙」へ

小中学生向けの環境教育サイト

知ってほしい森のこと。

**コンテンツ PICK UP!**

- 1 「森の博士」認定テスト
- 2 森のすごい人
- 3 「森の広場」ダウンロードコーナー

## WEBサイトの活用

**▲ 全国各地のコカ・コーラの活動**

日本全国のコカ・コーラ社が取り組んでいるコカ・コーラ「森に学ぼう」プロジェクトの活動をご紹介します。活動リーダーの声もお届けしています。

📅 2011年の活動レポート公開中

**▲ 生物多様性を知る**

東京農工大学  
宮林 茂幸教授 × 竹田 純一氏

自然は、今生きている人間が借りているだけのもの。

# 利根コカ・コーラの環境イベント関連の概要①

■費用負担をできる限り抑える

■企業色をできる限り抑える(主催イベント以外)

■パートナーとなって頂ける団体、ご協力頂ける行政との連携必須



## 事業所一覧

利根コカ・コーラボトリング(株)の利根という名称は、板東太郎の名で親しまれた我が国屈指の大河、利根川の地域を販売エリアとしていることにちなんで名づけられました。



## 利根コカ・コーラの環境イベント関連の概要②

---

■ 家族参加型環境イベント

■ 小学校への環境訪問授業

■ 参加・協賛させて頂いている環境フェアや環境イベントなど



コカ・コーラ  
森に学ぼうプロジェクト

# 家族参加型の環境イベント

## ■実施リスト(2011年)

コカ・コーラ森に学ぼうプロジェクト奥日光ネイチャーランドプログラム

コカ・コーラ森に学ぼうプロジェクト霞ヶ浦アサザ再生プログラム

コカ・コーラ森に学ぼうプロジェクト子ども森林楽校



# 小学校への環境訪問授業

## ■ 小学校への環境訪問授業の実施概要

・2007年～スタート

・千葉県、茨城県、栃木県の3県下で**39回**実施、**約2,200名**が参加

(2012年1月現在)



プロジェクト

# 地域主催の環境イベント

## ■協賛・参加させて頂いている環境フェア／イベント・クリーン作戦（開催県）

とうかいむら環境フェスタ（茨城県）

ヤングフェスティバル（千葉県）

霞ヶ浦・北浦清掃大作戦（茨城県）

NPO法人グリーンバード（千葉県）

CRTクリーン日光キャンペーン（栃木県）

オオハンゴンソウ等外来植物除去作戦（栃木県）

エコメッセ2011 inちば（千葉県）

水戸市環境フェスタ（茨城県）

もったいないフェア宇都宮（栃木県）

流山市民祭り（千葉県）

エコもりフェア（栃木県）



# 各取組みの問題点 & 注意点

## ■ 問題点

- ・日程の重複について
- ・参加者の募集について
- ・イベントの中止や延期の判断・対応について
- ・社内認知度の向上

## ■ 注意点

- ・実施時間について
- ・ケガ等の予防・対策について
- ・年齢の制限について



# 今後のビジョン

---

- ・環境訪問授業の実施拡大、内容の充実、コラボレーション検討
- ・環境イベント実施プログラムの改善と進化
- ・社内認知度の向上と協力体制の確立
- ・実施人員、予算の削減を検討・実施

